四月 宝生会 月並能

四月十二日（日）午後二時始
開場 午後一時
於 宝生能楽堂

14:00 八島

- シテ 佐野 登
- ツレ 高橋 憲正
- ワキ 工藤 和哉
- ワキツレ 大日方 寛
- 〃 野口 能弘
- 間 山本 則重
- 大鼓 安福 光雄
- 小鼓 幸 信吾
- 笛 藤田 朝太郎
- 後見 小林与志郎　佐野 由於
- 地謡 和久荘太郎　小倉伸二郎　大友 順　辰巳満次郎　朝倉 俊樹　大坪喜美雄　武田 孝史　金森 秀祥

15:30 地蔵舞

山本東次郎
山本 則俊

16:20 百万

- シテ 野月 聡
- 子方 出雲路 啓
- ワキ 野口 敦弘
- 間 山本 則秀
- 大鼓 亀井 実
- 小鼓 鳥山 直也
- 太鼓 林 雄一郎
- 笛 寺井久八郎
- 後見 宝生 和英　藤井 雅之
- 地謡 小林 晋也　水上 優　小倉健太郎　高橋 亘　中村孝太郎　三川 淳雄　田崎 隆三　今井 泰行

終演予定 十七時二十分頃

演目の解説

能「八島」（やしま）

旅の僧が、八島の浦で老若二人の漁師に出会います。僧が一夜の宿を乞うと、初めは断られてしまいますが、老人は僧が都の人と聞いて、泊めることにします。暫し都を懐かしんでいた老人に、僧が古の源平合戦の有様を尋ねると、老人は源義経の戦の様子、景清と三保谷四郎の錣引きのことを詳しく語ります。あまりに詳しいその語りに不審を抱く僧に老人は義経と仄めかして消えてしまいます。その夜、僧の夢の中に義経は在りし日の姿で現れ、流した弓を取り返したこと、また修羅道の苦しみを再現します。修羅能の大作。

狂言「地蔵舞」（じぞうまい）

僧が旅の途中、日も暮れたので宿をとろうとするが、そこには旅人に宿を貸すことを禁じた高札があった。僧は近くの家に宿を乞うも、主人に断られる。そこで僧は笠を預かってほしいと頼んで去る。その後主人が座敷を見ると僧が笠をかぶって座っている。僧が理屈をこねて居座るので、主人は禁制を破って宿を貸してしまう。夜更けに主人が寒さしのぎに酒をすすめると、僧は飲酒戒を守るとはじめは断るが…。

能「百万」（ひゃくまん）

奈良西大寺の辺りで拾った子供を伴い、男がやって来たのは人々で賑う嵯峨野の清涼寺でした。何か面白いものはないかという男に、寺の者はここに百万という女物狂いがいて、念仏を称えると現れるからと言って念仏を称えると、百万という女物狂いが現れます。百万は我が子に別れ、狂乱となった自分を嘆き、奈良坂を越えて京まで上って来た様を見せ、集った人々の中に我が子の姿を探します。子供から自分が百万の子であると聞いていた男は、最後に親子再会を促し、めでたく二人は故郷に帰って行きます。

次回予告

二〇二〇年五月十日（日）十四時始

- 千手　山内 崇生
- 大江山　朝倉 俊樹

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会